

キラリ 光るまち

お酒でつながる地の人・風の人

私の住む西粟倉村

私は岡山県西粟倉村^{にしあわくら}で酒屋をやっています。西粟倉村は、岡山県の北西に位置し、鳥取県、兵庫県と接する県境の村で、源流のきれいな水がおいしく、その水で育まれるお米もおいしい地域です。村のほとんどが森林で、林業の衰退に伴い若者が村を離れ、元気をなくしていました。が、もう一度森林を活性化させて村も盛り上げようという「百年の森構想」を2008年に打ち出し、移住者も積極的に受け入れる村づくりを行っています。最初は森林や木材系の仕事での移住者が多かったのですが、最近では、食用油の製造、温泉付きのゲストハウスの運営、子供の帽子屋等、様々な分野の移住者が増えていて、全国的にも注目されています。

なぜ酒屋に、西粟倉村に？

私も3年前に西粟倉村に移住してきました。

島根県出身で、京都で学生時代を過ごし、その時に滋賀の酒蔵に1週間泊り込みで酒造りを体験取材するという機会がありました。そこで見た酒造りのおもしろさ、毎晩飲みながら聞いた蔵人達の心意気、何もかもが新鮮で、驚きで、心を打たれた私はそこで日本酒にはまってしまうしました。

その後就職してからも、酒蔵を訪問したり、出張で訪れた全国各地で様々な日本酒を飲んだりしていましたが、そうするうちに、「もう飲んでいる場合じゃない、このお酒、それを造っている素敵な人たちのことを伝えなきゃ」と思い立ち、酒屋になることを決めました。ちょうどその折、西粟倉の知人に移住を勧められ、どうせやるなら新天地で、ということので西粟倉に移住しました。

酒屋の仕事

私の酒屋は少し、いえ、かなり変わっています。まず、店はほとんど開けていません。



店の入り口

廃校になった小学校の一室にあるのですが、外からでは酒屋とわからないので、ふらっと入ってくる人はまずいません。村の人々も、よほどのお酒好きでもない限り来ません。扱っているお酒は日本酒のみで、ビールも焼酎もワインもなく、配達もしていませんし、インターネット販売もしていません。

ではどうやってお酒を売っているのかというと、飲食店や日本酒のイベントでの出会い、そうやって知り合ったお客さんからの紹介や口コミ、そういったアナログ極まりないやり方です。一人ひとり



酒くらら

道前

理緒

とじっくりお話して、お酒を選びます。そうやって一度ちゃんとお話すると、その後は電話やメールで「お任せで送って」となることが多いです。だから店を開けていなくてもお酒が売れるのです。店を閉めて何をしているのかというと、取引先の酒蔵を訪問してお酒の話の聞いたり、酒造り用のお米の成長を見に田んぼに行ったり、出張日本酒バーに出かけたりしています。



店内

出張日本酒バーって？

文字通り、出張する日本酒バーです。当初は店の隣に日本酒バーを併設しようと思っていました。しかし村の人口は1500人、そのうちお酒を飲む人はわずか。どう考えても赤字だな、どうしよう…。そんな時、引越しのためお酒の在庫整理をしようと友人の店を借りて1日だけの日本酒バーを開いたら、なんと大盛況。そうか、田舎でもたまのことなら人が集まるかも。これが出張日本酒バーのアイデアが生まれたきっかけでした。

カフェ、ゲストハウス、民宿、公民館、様々な場所に日本酒を持っていき、おつまみは地元の人がつくってくれます。年齢、立場、地の人、風の人(移住者)、関係なく飲み交わし、語り合い、交流が生まれます。お酒が入って体が緩むと心までリラックスするのか、昼間は何となく話しくいなど思っていた人が、夜お酒が入ると気さくに話せるようになったりも。

西粟倉村には春の温泉まつり、夏まつり、冬の雪灯籠のイベント等があり、そこでお酒を出したり、あわくら大学という65歳以上の方が受講する講座で、日本酒と健康の話をして薬膳酒を一緒に作ったり、お酒で地域と関わろうという活動もしています。

酒づくり

私のもう一つの活動として、酒づくりがあります。

冬場に近くの酒蔵にお米を持ち込んで、ドラム缶で酒づくりをしています。いつか西粟倉のお米でお酒をつくりたいなど思っているので、その練習です。西



出張日本酒バー-お客さんと私

粟倉村にはこれといった特産品がないのですが、村のお米でお酒ができれば地域の人も愛着が沸き、特別な日に飲んでくれたり、どこかへ行くときのお土産として持って行ってくれるのでは、と狙っています。地域の田んぼが守れるといなど思っています。



お酒の仕込み

どこの地域でもできること

ここまで紹介してきた活動は、西粟倉だからということではなく、どこの地域でもできることです。特に出張日本酒バーは、お酒好きな人と場所があればいつでもできます。私は普段は岡山県内や隣の鳥取県に出張していますが、友人の紹介や、「地域おこしの事例として気になるので来てください」等依頼を受けて遠くに行くこともあります。どこもとも盛り上がり、毎回、お酒は人を結ぶなあと嬉しく思うのです。そして「また来てください」と言われる度に、地元の方がやってくれたらいいのにな、と思うのです。お酒好きな方、ぜひ真似してください。やってみたいという方、疑問質問すべてお答えしますので、酒うらら道前までご連絡ください。